

# 「病院新聞」

2015年3月19日 第2356号

## 行徳総合病院が開院

IMSグループ 199床から307床に増床



新病院では2・5次救急に対応



田中岳史院長

新病院は、「常に患者一人ひとりに信頼され・満足さを第一に考え、すべ

## 高機能医療を提供

ICU・HCU・SCUを整備

IMSグループ(中村哲也理事長)の医療法人財団明理会は行徳総合病院(田中岳史院長、千葉県市川市)を移転・新築し、4日から外来診療を開始した。病床数を199床から307床へ大幅に増床、ICU・HCU・SCUを整備した高機能病院に生まれ変わった。田中院長は「真心のこもった高機能医療を提供することによって、すべての人に信頼していただく」と抱負を述べた。

す」を理念に掲げ、地域の医療ニーズに対応する。診療の特徴に、①救急②循環器疾患③脳神経疾患④整形外科⑤消化器内視鏡治療⑥内視鏡外科手術の6本柱を掲げ、急性期病院としての役割強化を図った。救急では、専従の救急医を配置し救急総合診療科を開設した。ICUを6床整備、2・5次救急に対応する。循環器疾患については心臓血管外科を新設し、内科とともにチーム医療体制を構築した。脳神経疾患においてもチーム医療を推進し、SCU12床を整備し体制強化を進める。また、HCUも10床新設し診療機



5階にSCUを12床新設



栄養科の鎌田副主任(左)と看護部の小久保師長。協力して患者のケアに力を注ぐ



ウォークインクローゼットを完備した特別室

能のレベルアップを図る。チーム医療の強化にあたり、NSTを立ち上げた栄養科の鎌田陽子副主任は、「施設の規模が大きくなっても、より多くの患者様に元気になってもらえるよう食の面からサポートしていきたい」と意気込みを語る。看護部の小久保智子師長は、看護と食の面から得られる対策などを実践できるとして「看護側の要望を受

け、必要な栄養素や微量元素を提案してくれることで食の面からも治していける」とさらなる期待を込める。新病院は地上12階建て。延床面積は約2万2494平方メートル。旧病院から車で約10分の距離に移転・新築した。病床数は199床から307床に増床、個室は37床で、2室はタイプの異なる特別室(1泊10万8000円)となっている。このうち1室は別室に付き添用の部屋を整備した。目の前を首都高速湾岸線、国道357号が走り、高速の出口も近いことから羽田および成田空港からのアクセスも良く、法人利用なども想定し設計したものの、4床室は2部屋ごとに車いす用トイレを設置し患者の動線を短くするよう配慮した。3階建ての駐車場を整備、計184台の収容が可能となった。診療科は、内科、糖尿病内科、人工透析内科、乳腺外科、形成外科、皮膚科、眼科、救急科、循環器内科、腎臓内科、外科、整形外科、肛門外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、放射線科、消化器内科、神経外科、消化器外科、脳神経外科、小児科、婦人科、麻酔科の23科を標榜する。行徳総合病院は1980年に新行徳病院として開設。2000年に現名称へ変更した。